

小学校と中学校の学びを一体とした「体づくり運動」の学習評価を考える！(第3回)

-学習評価の実際-

日時：平成27年6月7日(日)
会場：東京学芸大学S棟&附属中学校
時間：9:00-16:30

平成20年改訂の学習指導要領から「体づくり運動」は、小学校1年生～高校3年生まで必修である唯一の領域となり、体育教師の注目を集めています。また、平成22年に出された「評価規準の作成のための参考資料」では、中学校では、「体づくり運動」の評価の観点として「運動の技能」が示されておらず、運動の計画を立てることが主な目的となることが強調されました。このような変化を受け、平成25年度から「小学校と中学校の学びを一体とした『体づくり運動』の学習評価」プロジェクト(代表：鈴木直樹/東京学芸大学)をスタートさせ、よりよい「体づくり運動」の実践を支える評価のあり方について学校種をこえて研究してきました。平成26年度からは代表を成家篤史(帝京大学)とし、さらに研究を深めてきました。本研究会では、このプロジェクトの研究成果を共有し、今後の体づくり運動の学習評価について考えていく機会をもちたいと考え、企画致しました。

○プログラム： 受付 8:30~9:00(場所：東京学芸大学S棟)

1) モーニングレクチャー

「からだ気づき」という視点から「体づくり運動」を考える(9:05~9:55)

高橋和子(横浜国立大学・中学校学習指導要領解説保健体育編改訂協力者/教授)

2) 小学校と中学校の学びを架橋する「体づくり運動」の学習評価の考え方(10:00~10:15)

鈴木直樹(東京学芸大学/准教授)

3) 学習評価に関する理論研究発表(10:20~10:50)

発表1 教師の意思決定と学習評価について 石塚 諭(お茶の水女子大学附属小/教諭)

発表2 学習者の学びを促す自己評価 成家篤史(帝京大学/講師)

4) 実践発表(11:00~12:00 場所：二会場に分かれます)

A会場 ICTの活用

座長：阿部隆行/都立永山高校主幹教諭

発表1 学習の変化を生み出す学習評価の実践 -映像データの評価情報としての活用-

(永末大輔/東京学芸大学附属竹早小・大熊誠二/東京学芸大学附属竹早中)

発表2 自己理解の学習を促す学習評価の実践 -動画をシェアするためのタブレットの活用-

(久保明広/佐賀大学附属小・松本大輔/西九州大学)

B会場 他者とのかわり

座長：脇野哲郎/新潟市立下山小校長

発表1 かわりの中で学習者の意思決定を支える学習評価の実践 -教師のリフレクションシートの活用-

(神崎芳明/千葉市立泉谷小・濱田敦志/千葉市立星久喜小)

発表2 聴き合うことでわたし(たち)を更新する学習評価の実践 -個人シートやグループシートの活用-

(神谷潤/お茶の水女子大学附属小)

昼食 12:00~12:50

5) 模擬授業・研究協議会(13:00~15:15)

長坂祐哉・久保賢太郎/東京学芸大学附属世田谷小・浅井百合香/東京学芸大学附属世田谷中

場所：東京学芸大学附属小金井中体育館(模擬授業)、東京学芸大学S棟(協議会)

「他者とかかわることで、自己を認識する学習評価の実践」

ICTを活用し、電子アルバムやグループノートを活用することで学習者の自己を認識することをサポートします。本日は30分弱の模擬授業を通して、評価実践の具体的に触れ、検討を深めていきます。

小学校模擬授業 13:00~13:30 中学校模擬授業 13:35~14:05

協議会 14:15~15:15 司会：成家篤史/帝京大学

6) 講評・講演 (15:25~16:25)

テーマ『遊び』という視点から体づくり運動の学習評価実践を語る！

講師：松田恵示 (東京学芸大学教授)

7) 情報報交換会 (16:40~17:40)

* お気軽にご参会下さい。

対象：小中高等学校の教員，学生，院生，研究者など体育指導に興味のある方

定員：100名 (先着順) 締切：6月5日 (金) 申込み：メール 参加費：無料

主催：小学校と中学校の学びを一体とした「体づくり運動」の学習評価プロジェクト

(プロジェクト代表：帝京大学 成家篤史)

備考：模擬授業にご参加される方は運動着と体育館履きをご用意ください。模擬授業は各回30名までとさせていただきます (先着順)。

本研究会は、環境に配慮し、クールビズでのご参会を推奨しています。

<p style="text-align: center;">高橋 和子</p>  <p style="text-align: center;">横浜国立大学教授</p>	<p style="text-align: center;">松田 恵示</p>  <p style="text-align: center;">東京学芸大学教授</p>	<p style="text-align: center;">鈴木 直樹</p>  <p style="text-align: center;">東京学芸大学准教授 博士 (教育学)</p>	
<p>山形県出身。舞踊教育のカリキュラム研究や舞台での創作活動を行うとともに、体育科教育の立場から「からだ気づき」という「新しい学びの様式」の実践研究を続けている。2012年から中学校1・2年においてダンスが男女必修になるが、その導入に深くかかわり、全国各地でダンス指導の指導・助言者を行っている。日本女子体育連盟会長、中央教育審議会臨時委員、日本体育科教育学会理事。著書・論文多数。</p>	<p>主な研究テーマは社会意識論(遊び・スポーツ・身体)、スポーツ社会学理論。教育支援人材育成や体育科教育の開発を通じて、地域や学校や企業との実践的な共同作業を行っている。日本スポーツ社会学会理事・編集委員長、日本体育・スポーツ政策学会理事・事務局長、日本体育科教育学会理事、中央教育審議会生涯学習分科会専門委員。主な著書は「交差する身体と遊び」「スポーツ文化と教育」など多数</p>	<p>埼玉県出身。東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科修了。埼玉大学教育学部講師、准教授、ニューヨーク州立大学コルトランド校客員研究員を経て現職。体育の学習評価、ボール運動・球技の授業づくり、教師の成長に関する研究に関して、論文及び著書が多数ある。国内のみならず、海外からも招聘され、講演や講義を行っている。また、本プロジェクトの研究結果をまとめた書籍の中心編者である。</p>	
<p style="text-align: center;">石塚 諭</p>  <p style="text-align: center;">お茶の水女子大学附属小教諭</p>	<p style="text-align: center;">成家 篤史</p>  <p style="text-align: center;">帝京大学専任講師</p>	<p style="text-align: center;">長坂 祐哉</p>  <p style="text-align: center;">東京学芸大学附属世田谷小教諭</p>	<p style="text-align: center;">久保 賢太郎</p>  <p style="text-align: center;">東京学芸大学附属世田谷小教諭</p>
<p>2001年より現職。お茶の水女子大附属小では、体づくり運動やボール運動を中心に、感覚や理解を大切にしたい体育授業を実践。毎年2月に実践発表をし、全国の先生へ研究成果を発信。「感じと気づきを大切にしたい授業づくり」シリーズの編著者。H25年度から本プロジェクトの理論部会部長。プロジェクトの書籍の編者である。</p>	<p>埼玉県公立小学校、お茶の水女子大学附属小学校の教諭を経て現職。カリキュラム研究会理事長。主な研究は『感覚的アプローチ』による体育授業づくり。「感じと気づきを大切にしたい授業づくり」シリーズの編著者、書籍の分担執筆・雑誌や論文執筆など多数。H26年度から本プロジェクトの代表を務め、プロジェクトの書籍の編者。</p>	<p>東京都出身。東京都公立小学校教員を経て現職。学校体育研究小学部会事務局長、体育授業研究会研究部員を務め、仲間とともに民間研究サークルの活性化に力を注いでいる。子どもとともに作る授業を標榜し、各研究会や書籍の分担執筆において授業実践提案・報告を積極的にを行い、よりよい授業づくりに日々取り組んでいる。</p>	<p>東京学芸大学卒業後、東京都公立教員を経て、平成26年度より現職。「子どもたちにとってのよりよい授業」の実現に向け、日々実践研究に励む。校内における授業・研究を行う傍ら、官制・民間各種研究団体に所属し、授業提案・実践報告を行いながら「学び続ける教師」を目指し積極的に研究活動に励む。本日は模擬授業を担当。</p>
<p>お申込み・問い合わせ先 中村有希 (東京学芸大学大学院) メール: m152210f@st.u-gakugei.ac.jp * 申し込みはお名前と所属、模擬授業への参加の有無を明記して、メールにてお申し込みください。</p>			

